

多摩川緊急治水対策プロジェクト説明会 主な質疑・意見等

日程	圏域	質疑・意見	回答
7月5日	四谷	この地域には四谷樋門があるが、令和元年東日本台風の際は開閉しなかった。本来どうすべきだったのか。また、大丸用水堰を改築して石原水位観測所の水位が下がるとしても、堰より上流の水位には関係ないのではないか。	(京浜河川事務所) 樋門については、東京都が管理している。東京都に確認しないと分からないが、河川の水位の操作規則に沿って開閉を操作することになると思う。 一般的に堰など、断面を阻害する構造物があると、その上流側の水位が上昇する。大丸用水堰の改築と土砂の掘削によって、堰の上流側の水位を下げる効果がある。
		樹木の伐採について、大丸用水堰より上流の樹木を伐採する予定はないのか。	(京浜河川事務所) 緊急治水対策プロジェクトでの河道掘削、樹木伐採については、令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、水位を低下させ、多摩川の氾濫を防水するために必要箇所について実施することとしている。 なお、現地確認の結果、河川管理上必要な場合には、河道掘削や樹木伐採等を実施する予定である。
7月26日	押立	工事中は、氾濫のリスクは増えないのか。	(京浜河川事務所) 台風や梅雨時期を避けた、洪水のリスクが少ない非出水期に工事を実施している。また、台風時期などの出水期に工事を行う場合は、氾濫リスクの増加に影響しないものを実施している。
		河川の改修工事を実施したら、ハザードマップの見直しはあるのか。	(京浜河川事務所) 想定最大規模が大きいので、現段階では見直しの予定はない。
		堤防の強化はしないのか。	(京浜河川事務所) 緊急治水対策プロジェクトでは令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、水位を低下させ、多摩川の氾濫を防水するため、河道掘削・堰の改築・堤防整備を進めている。堤防の補強も含め、通常の河川整備については継続的に実施していく。
		河道掘削工事は終了したのか。他自治体では河川の中洲も削っていた。府中市においても中洲を削った方がいいのでは。	(京浜河川事務所) 河道掘削工事は、現在実施中である。府中市の区間についても掘削を予定している。
		河道掘削を行っている箇所の地盤の変化などは確認しているのか。	(京浜河川事務所) 川底の土質が大きく異なる場合は確認している。
		プロジェクト全体の期間が令和6年までとなっているが、河道掘削などは、それ以降も継続して実施するものと思っていた。	(京浜河川事務所) 緊急治水プロジェクトとしての河道掘削は、令和6年度までを予定している。
		対岸の稲城側と堤防の高さが違うように見える。また、稲城側は樹木が茂っていて不安である。環境面で樹木伐採が難しいのかもしれないが、もう少し手入れをしてほしい。	(京浜河川事務所) 堤防については、計画の高さを確保するよう整備を行っている。樹木については、ご意見としてお伺いしておく。
		堰の付近では1.5mの水位低下効果があるとの事だが、もっと下げることが可能なのか。	(京浜河川事務所) 緊急治水対策プロジェクトは、令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、水位を低下させ、多摩川の氾濫を防水するため、河道掘削・堰の改築・堤防整備を実施している。
		洪水シミュレーションのようなものは見ることはできないのか。	(京浜河川事務所) 分かりやすく住民に地域のリスクを周知する方法を検討していく。
		令和元年東日本台風では、近くの避難所が満員になってしまい、入れない人がいた。東日本台風以降、どのような対応になっているか。	(府中市) 市では令和元年東日本台風の教訓を踏まえ、避難所に収容できるスペースを拡張したほか、要配慮者専用の避難所や車両で避難できる避難所、ペット同伴で避難できる避難所など、避難者のニーズに応じて避難できる施設を設定した。 現在、全戸配布している府中市水害ハザードマップ改訂版でもマップ上に避難所の分類を表記しているので、是非確認しておいていただきたい。
		一般の人にも分かるような告知等はあるか。	緊急治水対策プロジェクトについては、京浜河川事務所HPに掲載している。また、京浜河川事務所が実施中の工事の情報についてもHPに掲載している。

多摩川緊急治水対策プロジェクト説明会 主な質疑・意見等

日程	圏域	質疑・意見	回答
8月4日	住吉	関戸橋の工事が休止しているが、中州のようなものが残っている。大雨時に流されるのでは。	(京浜河川事務所) 東京都が長期に渡り実施している工事で、出水期は工事を休止している。休止期間中に、出水に対して大きな影響が出ないように指導している。 なお、当該工事では、外部から土砂は運び入れていない。
		府中市から狛江市まで河道掘削をしているとの事だが、水位低下効果はどのくらいなのか。	(京浜河川事務所) 大丸用水堰付近で、令和元年東日本台風の実績水位に対して1.5mの水位低下を見込んでいる。
		河川の洪水のみではなく、内水氾濫の起こる可能性もあるのではないかと。	(府中市) 内水氾濫マップについては、現在全戸配布している水害ハザードマップに掲載しており、住吉文化センター圏域は内水氾濫が起こる可能性のある地域なので確認しておいてほしい。
		令和元年東日本台風の際は、2日間流域平均雨量が490mmであったとのことだが、浸水想定区域(計画規模降雨)は2日間457mmとなっている。計画規模降雨以上の雨が降ったという事か。また、この想定は何年に1度程度の降雨なのか。	(京浜河川事務所) 令和元年東日本台風の際は、計画規模降雨以上の雨が降った。雨の降り方によっても河川の水位が変わってくるが、大丸用水堰付近の河川水位は堤防の計画高水位を超え、堤防決壊の危険性があった。計画規模の降雨は約200年に1度を想定しており、想定最大規模降雨は、500年～1000年に1度を想定している。
		資料の8ページの想定最大規模降雨は、2日間588mmとなっているが、令和元年東日本台風の際は、多摩川上流では2日間600mm降っている。雨量が1000mm増えた場合、どの程度浸水するか計算はしているのか。	(京浜河川事務所) 想定最大規模降雨以上の降雨については計算していない。また、588mmは流域平均雨量であり、令和元年東日本台風の流域平均雨量490mmとの比較になる。
		小河内ダムの放流なども考慮したうえでの浸水想定なのか。	(京浜河川事務所) 小河内ダムは利水ダムであるため浸水想定においては、ダムに入ってくる水量をそのまま下流側に流すこととしている。
8月7日	是政	大丸用水堰の工事について、工事後にまた土砂が溜まっていくと思うが、どの段階で掘削するのか。	(京浜河川事務所) 工事によって、土砂が溜まりづらくはなる。概ね5年に1度測量をするので、必要に応じて掘削していく。
		計画高水位を越えているが、多摩川が氾濫しなかった要因は何か。	(京浜河川事務所) 堤防の設計上は担保されていないが、余裕高の範囲で、何とか持ちこたえられた。堤防の計画高水位を超えたため、決壊してもおかしくない状況であった。
		大丸用水堰の断面を掘削すると、流下速度が上がるのではないかと。また、流下速度が上がると、下流の平坦な場所で水がたまるとはならないか。下流も掘削するなど何か対策を講じるのか。	(京浜河川事務所) 河川の勾配を計算しながら掘削していく。また、大丸用水堰だけでなく、川幅が狭いところの断面を削ったりしながら水位を下げていく。
		多摩川の水位を見る際、下流の石原水位観測所が基準となっているが、上流の日野や浅川等も見たい方がないか。	(京浜河川事務所) 上流は調布橋水位観測所、浅川は浅川橋水位観測所が、河川の増水や氾濫などに対する住民の避難行動の参考となる、洪水予報の基準点となっている。また、水防活動等を行う上では、日野橋水位観測所等の水位も注視しながら実施している。
		郷土の森体育館の前に、農業用水や排水路があるが、内水氾濫について教えてほしい。	(府中市) 内水氾濫マップについては、全戸配布している水害ハザードマップに掲載しているので確認をお願いしたい。
		砂利を掘って、それをまた戻していたが、何をやっているのか。	(京浜河川事務所) 河川敷を掘って、その掘った土砂を活用しつつ、水路を作っている。水路、帯工を作って、用水施設が完成すれば、大丸用水堰を作り直す計画になっている。
		大丸用水堰の改築スケジュールを教えてください。	(京浜河川事務所) 令和6年度末を目途に終了予定。ホームページ等でお知らせしながら、進めていく。
		ダムの放流の対応を教えてください。	(京浜河川事務所) 小河内ダムは利水ダムであり、洪水調節用のダムではない。しかし、小河内ダムと治水協定を結んでおり、台風が来る前に放流をして、大雨時に貯水量を増やすことで、一時的に治水のための容量を確保し、洪水調節機能強化を推進している。